

おきなわ



作品名:「灯台のある風景」(平成23年度かりゆし美術展かりゆし賞)
作成者:高良幸子さん(宜野湾市)

目次

② 特集「福祉・介護分野における 人財育成について」

④ 共同募金会だより

⑥ シリーズ活動最前線 「南風原町社会福祉協議会」

⑦ ほっとニュースTOPICS

- ・日常生活自立支援事業専門員等研修会
- ・第25回県児童福祉施設等スポーツ大会

⑧ ほっとニュースTOPICS

- ・介護・相談支援従事者スキルアップ研修会
- ・「気になる子どもへの支援を考える」講演会
- ・社協活動推進フォーラム2012
- ・地域福祉活動への助成 案内と報告 他

⑬ かりゆし長寿大学校地域活動推進事業報告 他

⑭ 2012年度福祉の職場説明・面接会 他

⑯ インフォメーション、寄付者芳名、表紙の絵 他

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として、共同募金配分金を充当しております。

特集

福祉・介護分野における人材育成について

「沖縄県の福祉・介護人材の需給動向調査」及び 県内の事業所の取組から見えるもの

経済・雇用情勢の低迷や少子高齢化の進行、地域社会や家庭機能の変容等を背景に、福祉・介護サービスへのニーズは複雑・多様化し、増加している状況にある。

それに伴い、施設・事業所が提供するサービスについても質の向上が求められ、サービス提供を担う人材の確保と同様、人材の「育成」は、喫緊の課題である。

今回の特集では、平成24年3月に沖縄県が実施した「沖縄県の福祉・介護人材の需給動向調査」による結果、及び人材確保に向けた基本的方向性のほか、平成24年度7月より新たにスタートした人材確保・育成に関する事業概要についても紹介する。さらに、県内の事業所における人材育成の取組や、その取組からうかがえる経営者・管理者の「想い」を伝える。

「福祉・介護人材の 需給動向調査」を見る

沖縄県（福祉保健部）は、平成24年3月、県全域の福祉・介護事業所、および労働者へのアンケート調査などを通して、県内における福祉・介護人材の需給動向等を把握し、福祉・介護人材の確保・育成施策の基礎資料を作成することを目的に、「沖縄県の福祉・介護人材の需給動向調査」（以下、調査）を実施した。

表1：調査の対象と調査票の回収率

調査対象	回収数（％）	配布数
事業所	1,084 票（44.3％）	2,446 票
労働者	4,170 票（28.0％）	14,911 票

表2：調査から見える県内の福祉・介護労働市場の現状

平均職員数	約 21 人	給与水準	約 20 万円
正社員：非正社員比率	5：5		
離職率	19.0％	採用率	22.1％

■事業所への調査結果（抜粋）

把握している 離職理由	家族・家庭の事情	健康上の理由	異業種への転職希望
	34.7％	31.4％	30.9％
職員の定着率	高い方 47.0％	低い方 7.2％	どちらともいえない 42.3％
人材育成の 取組	社外研修の教育・研修の機会の利用 59.7％	教育・研修の計画を立て、実行している 51.8％	

《その他》

- 職員採用や離職の状況
 - ・非正社員の離職率が高い。（全体19.0％。正社員11.2％、非正社員27.6％）
 - ・離職防止策では、「コミュニケーションの円滑化」（56.9％）、「労働条件の改善」（51.9％）が上位。
- 職場・労働環境に関すること
 - ・職場環境・労働環境の整備では、「仕事上のコミュニケーションの充実」（42.3％）、「勤務時間・労働日数の適正化」（35.0％）、「教育研修の充実」（33.4％）が上位。
- 人材育成・研修に関すること
 - ・能力の向上が認められる場合、配置や処遇に反映させている事業所もある。（21.2％）また、新規採用時研修は、経営理念等を伝えている事業所が多い

■職員への調査結果（抜粋）

離職理由	上司・経営者と 合わなかった	給与面が 合わなかった	家族・家庭の事情
	25.3％	21.1％	16.0％
職場への 満足度	やや満足 43.9％	どちらともいえない 28.2％	やや不満 13.3％
採用時の 研修	特になかった 61.8％	あった 32.9％	無回答 5.3％

《その他》

- 仕事及び現在の職場に対する意識
 - ・現在の仕事を選んだ理由は「働き甲斐のある仕事だと思った」（60.7％）がトップ。
 - ・現在の仕事に対して、約6割が継続の意向をもっている。
 - ・職場に対する不満は、「給料が安い」（46.5％）、「精神的負担が大きい」（36.5％）が上位。
 - ・職場の人間関係に対する不満は「仕事についての意見交換が不十分」（25.5％）がトップ。
- キャリア・研修について
 - ・過去1年間の研修受講者の割合は、65.2％。1年間の平均受講回数は4.3回となっている。
 - ・希望する研修で、約6割が「現場で求められる業務に関する研修会等（資格取得目的含まず）」となっている。
 - ・今後のキャリアパスについて職員の関心は高く、特に男性はキャリアパスが存在しないことを離職理由として挙げている者も多い。（上記「離職理由」の1、2位に次いで3位：15.2％）

※掲載している調査結果は、下記の URL より
ご覧いただけます。

沖縄県 HP「沖縄県の福祉・介護人材の
需給動向に関する調査報告書」↓

<http://www.pref.okinawa.jp/site/fukushi/engo/chiiki/jyukyudoko/top.html>

■福祉・介護人材の確保に 向けた基本的方向性

調査報告書では、各調査票から事業所と職員者間でコミュニケーションの円滑化や待遇面等でギャップが存在すると述べられている。

また、これら結果を踏まえ、事業所が利用者一人ひとりの尊厳を守り、良質なサービスを提供していくためには、スキルの高い職員を確保・育成していくことが必要であり、それには、「離職率を低下させ、継続年数を長期化させる方策の検討が重要」としている。

●今後、安定的に質の高い人材を確保していくために、以下3つの方向性を積極的に推進していくことが重要であると示されている。

基本的な方向性

- 労働条件の整備
給与水準の向上、正社員化の推進
- 職場環境の改善
コミュニケーション活性化方策の検討
- 職員のキャリアアップ・スキルアップの支援
研修活動へのサポート、キャリアパスの明確化

■「福祉・介護人材育成基盤整備事業」の開始

前述の調査に示された基本的方向性を踏まえ、沖縄県、又は各地域（圏域）における福祉・介護人材の安定的な確保及び育成を行うことができるよう、県社協では、沖縄県から「福祉・介護人材育成基盤整備事業」を受託し、平成24年7月より開始した。

本事業では、地域において安定して質の高い福祉サービスを提供できる人材を育成する為の基盤整備を図り、サービス利用者の福祉向上に資することを目的に、「本県における人材育成の指針を示すガイドラインの策定」や「事業所が従業員のキャリアアップを段階的に図るための標準カリキュラム及びテキストの作成」等を実施内容とする。

事業を進めるに当たり、県内の福祉・介護サービスを提供する施設・事業所をはじめ、職能団体や養成校等、様々な関係者により構成される委員会を毎月数回開催している。

県内事業所における人財育成の取組

「経営者・管理者の「想い」」

社会福祉法人をはじめ、NPO、民間企業等、多様な主体が参画する福祉・介護分野では、事業所の形態や経営方針、事業開始に至った経緯等は様々である。

しかし、サービス提供を行っていく上で、職員という「人財」を重視し、その育成を積極的に行っている事業所は県内に多数ある。ここでは、県内の事業所の内、2箇所の取組内容、及びその経営者・管理者から聞いた人財育成への「想い」を取り上げる。

「知り合うと皆『家族』」 デイサービスセンター せせらぎの取組

南風原町新川にある有限会社あらかわデイサービスセンターせせらぎ（志慶真光子センター長）は、平成16年2月に開所し、今年10年目を迎える。センターの職員は、介護士や看護師、調理師等18名。志慶真所長は、年に2回、職員及び事業所が事業所の理念・信条

を実践しているか、職員自ら振り返りを行える自己評価を業務報告とともに配布し、職員の考えを理解するよう努めている。

「『どのようになればスタッフに、長く、楽しく、気持ち良く働いてもらえるか』ということを常に考えている。」と、志慶真所長は言う。

せせらぎを開所した平成16年に社会保険労務士の協力により、「せせらぎの理念と信条がよくわかる冊子」を作成した。志慶真所長は「理念がないと事業所はバラバラになる。そして、理念を掲げるだけでなく、スタッフへ伝える努力、スタッフとのキャッチボールが大事」と話し、職員への理念の周知を始めた。

「こうやって10年目を迎えられるのも、理念を理解し、共に歩んでくれたスタッフのおかげ。」と、志慶真所長は職員に対する感謝の気持ちを幾度も口にする。

「縁あって出会えたあなたと楽しくステキに育てた、ゆいまーのこのころ」というせせらぎの理念の

「あなた」とは、利用者だけでなく、せせらぎのスタッフや周りの人という想いが込められている。

「知り合うと皆『家族』である。」と、志慶真所長は利用者や職員の大事さを話してくれた。

「理念の周知・理解の重要性」 社会福祉法人松籟会 かりゆしぬ村の取組

名護市宇茂佐にある社会福祉法人松籟会かりゆしぬ村（仲兼久文政理事長）では、平成20年4月より「人材養成企画室」を設置し、職員の育成に努めている。

新規に採用された新任職員に対するオリエンテーション時には、必ず、理事長自ら講話を通して法人の理念・基本方針・標語・心のキャッチボール業務のための六つの視点等を伝えている。

「法人の理念は、様々な利用者に対するどの福祉サービスの提供においても、いちばん基礎となり、重要なものである。」と、人材養成企画室の名護室長と島袋室長補佐は口を揃えて言う。
老人福祉法等の基本理念

に基づいたサービスの提供はもとより、高齢者の経験の豊かさ等を尊重すること、また、施設内外を問わず、「地域」を大事にし、地域福祉を積極的に担っていくことのできる職員の養成を目指して、現在も企画室の体制を変化させながら、取り組みを行っている。

「職員は『人材』という言葉が示す存在ではなく、『人財』という財産である」と、仲兼久理事長は常に私たちに訴えている。経営者・管理者のこのような考えによって、より充実した取り組みが行える。」と名護室長は、経営者の示す理念の重要性を語ってくれた。

かりゆしぬ村では、法人内の職員だけでなく、地域の施設・事業所にも呼びかけ、無償で研修の機会を提供している。これも、地域の人財を大事にした取り組みの一つである。

先駆的・独創的ということを意識した取り組みから、経営者の理念が、職員にしっかりと伝えられていることがうかがえた。



温かいご寄附ありがとうございます

11月～1月までに企業からいただいた

「寄附・寄贈」をご紹介します

沖縄県ボウリング場協会

11月25日に歳末たすけあいへ30万円の寄附をいただきました。

・オキコ(株) ・沖縄明治乳業(株)

12月3日に歳末助け合いへ、オキコ(株)より50万円の寄附と、沖縄明治乳業(株)よりLドリンク1440本とぜんざい40kgの寄贈をいただきました。



沖縄明治乳業(株)



オキコ(株)

メサイア演奏会実行委員

12月16日に歳末たすけあいへ50万円の寄附をいただきました。



(株)琉球銀行

12月20日に共同募金へ20万円と歳末たすけあいへ20万円の寄附をいただきました。



(株)沖縄銀行

12月20日に共同募金へ20万円と歳末たすけあいへ20万円の寄附をいただきました。



(株)沖縄銀行・労働組合

12月26日に歳末たすけあいへ328,138円の寄附をいただきました。



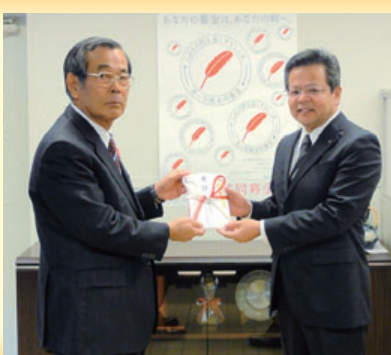
沖縄県洋菓子協会

12月5日に歳末たすけあいへクリスマスケーキ260個の寄贈がありました。



(株)サンエー

12月10日に共同募金へ200万円の寄附をいただきました。



沖縄製粉(株)

12月21日に歳末たすけあいへクリスマスケーキ300個の寄贈がありました。



具志堅グループ琉鵬会

12月21日に歳末たすけあいへ100万円の寄附をいただきました。



©中央共同募金会

沖縄県共同募金会

TEL 098-882-1435 / FAX 098-882-14270
ホームページ <http://www.okishakyu.or.jp/kyoubo/>

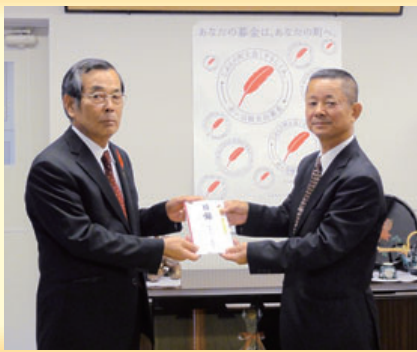
株丸 大

12月26日に歳末たすけあいへ241,574円の寄附をいただきました。



**りゅうぎんプレゼンツ
ナイスハートバザール**

12月11日に東日本大震災の義援金として6万円の寄附をいただきました。



久米国鼎会

12月26日に歳末たすけあいへ15万円の寄附をいただきました。



タマキホーム(株)

1月13日に東日本大震災の義援金として50,5510円の寄附をいただきました。



南西観光ホテル

11月29日に東日本大震災の義援金として23,140円の寄附をいただきました。

株光 貴

12月27日に共同募金へ11,137万円の寄附をいただきました。



台風16号・17号「台風災害見舞金」を支給！

去った9月15日・16日に台風16号、9月28日・29日に台風17号と続けて沖縄本島地方を通過し、暴風や豪雨、高潮に伴う風水害が発生しました。

特に、本島北部地方に大きな被害をもたらせた台風ですが、災害救助法の適用が無いことから「沖縄県社会福祉協議会災害救援本部」と本会が被害状況を確認しながら見舞金を決定し支給しました。詳細は下記のとおりです。

市町村名	金 額
国頭村社会福祉協議会	470,000 円
大宜味村社会福祉協議会	400,000 円
東村社会福祉協議会	500,000 円
伊是名村社会福祉協議会	300,000 円
伊平屋村社会福祉協議会	300,000 円
名護市社会福祉協議会	500,000 円

健康復活プロジェクト(豊見城市共同募金委員会)

期間拡大を活用した取り組み

中央共同募金会では、従来の3か月間の運動期間に加えて、25年3月末までの延長期間を利用し「いつでも、どこでも、だれからでも」共同募金にご寄付をいただける環境づくりのため、募金モデル助成事業を募集した。本県では豊見城市共同募金委員会が「健康復活プロジェクト」事業に取り組んでいる。豊見城市の高齢化率は13・9%と低いが、生活習慣病有病者率は5割を超え、健康長寿が危ぶまれている。社会福祉センターリハビリ室を市民の健康復活・増進の場として健康器具等の充実を図り、市民健康講座等の増進事業につなげたい。募金手法としては、成人式・もちつき大会等のイベントでの募金活動、芸能チャリティー公演、寄附付き商品の販売で目標額を100万円に掲げ取り組んでいる。募金モデル助成事業に関する問い合わせは県共募まで。



豊見城市社会福祉センターリハビリ室

職員研修で議論を重ね
災害時対応マニュアル策定
南風原町社会福祉協議会

平成24年12月、南風原町社会福祉協議会（以下「町社協」という）は、災害時対応マニュアルを策定した。災害時における町社協の対応をまとめ、社協組織として策定したのは、県内の市町村社協の中で初めてである。

策定までの経緯

町社協では、平成22年11月に行われた町主催の防災訓練に初めて参加し、災害ボランティアセンター（以下「災害VC」という）の立ち上げ訓練を行った。この訓練によって、災害時における社協活動の具体的なイメージが出来始めていたところ、東日本大震災が発生。災害時における



JPCom代表の桑原英文氏を招いての職員研修会の様子

住民支援について、市町村社協の役割が益々重要となってきた。中での大震災。町社協としても災害VCの運



職員研修のワークショップ風景

マニュアルの特徴

担当の島袋康史氏は、「マニュアルの中身は他の社協で既に作られているものを色々と参考にしながら作った。私たちが工夫した点といえば、マニュアル策定までの過程」として、6回の職員研修を開き、ワークショップや検討会を通して職員全員が意見を出し合い、作り上げていった点がこのマニュアルの強みだという。

その他にもマニュアルの特徴として挙げられるのは、社協組織の平常時の備えや災害時における通常業務体制と非常体制について明確に区分した点等がある。これらの特徴は、職員一人ひとりが災害時の自らの動きを想定し、そこから生まれた疑問や意見をマニュアルに反映させた成果ともいえる。

今後は、地域の避難訓練などでマニュアルを検証しながら、いざという時のために平時から災害に備えた活動を行うとしている。

全国200万人
加入!!

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

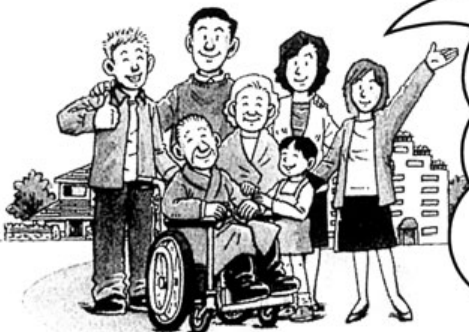
ボランティア活動保険

Aプランで、死亡1,400万円、入院7,000円、通院4,100円、賠償責任5億円(限度額)を補償

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索



特長は

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償!
- 熱中症(日射病・熱射病)による障害も補償!
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償!
- 地震など天災によるケガも補償(天災タイプご加入の場合)

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

年間	基本タイプ	Aプラン	280円	Bプラン	420円
保険料	天災タイプ	Aプラン	490円	Bプラン	720円

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、最寄りの社協にお問い合わせください。

お申込み、お問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(引受幹事保険会社) 日本興亜損害保険株式会社

ソーシャルワークの
基礎・技術を習得する
日常生活自立支援事業
専門員等研修会

判断能力が不十分な障害者や高齢者の福祉サービスの利用援助などを行う日常生活自立支援事業で、業務にあたる専門員らを対象にした研修会を1月16日に開催した。

同研修会は、専門員に対して対人援助に必要なソーシャルワークの知識や技術の理解、習得を目的に年1回開催している。

今回は22名が参加し、和やかな雰囲気の中行われた。講師には沖縄大学教授の富樫八郎氏と同大准教授の玉木千賀子氏を招聘し、午前と午後に分けて講義と演習を行った。

前半は富樫氏より、「ソーシャルワーク・プロセスの

理解」と題して講義を行った。ソーシャルワークの基礎的理解を促し、支援活動

を専門的な視点で意識することにつながることをねらい。富樫氏は、ソーシャルワークとは生活課題に対する

対処能力の向上と社会資源の活用を支援することであると述べたのち、プロセスについて、エンゲージメント（契約）からインターベンション（介入）を中心

に説明された。特にアセスメントの段階では、対処能力のアセスメントがされないことがあると指摘し、現実認識能力や自尊心感情など

について情報収集・分析の必要性を指摘した。

午後は、玉木氏が再度、アセスメントとプランニングの意味について説明をしたのち、演習にて、実際に事例をもとにアセスメントとプランニング作業を行った。

演習は、事例内容から必要な情報収集、分析を行い、課題を明らかにしたうえで支援計画を立てるもの。

グループごとにわかれ、

得られた情報の中から人と環境の視点を活用し、対象者の状況について分析に取り組んだ。

玉木氏からは、人と環境の視点から、対象となる人の現状認識、ニーズ、課題までをストーリーとして組立てて理解することが重要との指摘があった。

勝利を目指し走る選手
試合を盛り上げる応援団

第25回沖縄県児童福祉施設等スポーツ大会（主催／県社協）が1月26日中城村民体育館・ごさまる陸上競技場で開催された。

大会は男子サッカー、女子バスケットボール、小学生以下によるドッジボールの3種目で行われた。

今大会には県内の児童養護施設等10施設が出場し、選手・応援合わせて児童317名の参加があった。

開会式のあと、各競技とも熱戦が繰り広げられた。

男子サッカーは、晴れ



講義に耳を傾ける参加者

渡った青空のもと、グラウンド狭しと選手が走り回り、熱気溢れる試合が展開された。結果、島添の丘が前回優勝の石嶺児童園をやり優勝した。

バスケットボールは、昨年初出場・初優勝を果たした漲水学園（宮古島）が今年もその強さを発揮し、前回同様の顔合わせとなった決勝では、美さと児童園と対戦。接戦を制し見事2連覇を成し遂げた。

ドッジボールでは、6チームが出場し、スポーツ

競技として激しい攻防が各試合で展開された。

試合に劣らず応援も熱を帯び、パーランクーやベクトボトルを片手に賑やかな応援となり、大会を盛り上げた。

試合結果は次のとおり。

男子サッカーの部

優勝・島添の丘

準優勝・石嶺児童園

女子バスケットボールの部

優勝・漲水学園

準優勝・美さと児童園

小学生ドッジボールの部

優勝・石嶺児童園

準優勝・島添の丘



平成24年度 介護・相談支援従事者スキルアップ研修会

「精神障がい者の特性の理解と支援」

昨今の精神障がい者を取り巻く環境は、地域移行や脱施設化の流れに伴い大きく変化している。これまで病院や施設で生活していた障がい者が地域へ居住の地を移した際、住みやすい地域生活を維持していくためには、医療面と生活支援の面等でのサポートが必須となっている。

本研修会は、様々な障がいの特性や当事者・家族への支援策などを発信する目的で、12月5日(水)県総合福祉センターで開催した。

対象は主に精神障がい分野での相談・介護従事者で、104事業所191名が参加した。



支援のポイント

【基本となる考え方】

- ▶ 受容と共感
- ▶ ルールには従う
- ▶ 本人の特性を知る
- ▶ チームで対応する
- ▶ 必ず誰かに相談する
- ▶ 自分自身の健康を保つ
- ▶ セルフケアが重要
- ▶ ミーティングを多く持つ
- ▶ 【本人側から病気を診る】
- ▶ 感じたことは本人にとっ
- ▶ ては事実であることを認識し、否定せず、肯定せず、はぐらかしたりせず「せざるを得ない辛さ」を理解するようにする。

【受容】

- ▶ 自分の苦しみに関心し正当性を認めてくれる人を求めているため、辛さを共に理解するためにゆっくりと話をする機会を作る。

【休息の提案】

- ▶ 薬は有効に作用するが、良質な睡眠がとれるとなお、こころの苦しさが楽になることがある。
- ▶ 「少し休みませんか」と提案していく。

【家族への支援】

- ▶ 病気の知識がない時は正しい知識を伝達する。
- ▶ 家族も疲れ果てていることが多いため、批判ではなく、まずは労う。
- ▶ キーパーソンを見つけて協働する。
- ▶ 【援助者としての接し方】
- ▶ いつでも変わらない：できるだけ一定の態度で接する。

▶ 援助の限界を設定する：

- ▶ 常に支援できる範囲とこれ以上はできない範囲設定をして、それを守らせる。時には関係機関がスクラムを組む。

▶ 冷静に一貫した視点で話を聞く：

- ▶ 受容や共感も重要だが、黙ってうなづきながら聴くのがよい。そして、常に現実的な問題に視点を引き戻していく
- ▶ 気づきを促していく：両極端の間の選択肢を考え、新しい価値に気づき、それが行動にも反映されていくようにしていく。

津波敏雄さん

厚生労働大臣賞
を受賞



作品名 乾漆椰子皮朱塗花器

昨年10月に行われた「ねりんピック宮城・仙台2012大会」の美術展において、本県より出品した作品が工芸部門の最高賞となる厚生労働大臣賞に選ばれた。

受賞した津波さんの作品は、平成23年度に実施した第3回沖縄ねりんピックかりゆし美術展において県知事賞を受賞した作品で、講評では「どの角度から眺めても美しいフォルムの器。椰子皮の自然の曲線が、円錐形の4本の足と見事なバランスを保っている。朱漆の鮮やかさはまさに沖縄な

児童虐待の脳に及ぼす影響

「気になる子どもへの支援を考える」講演会を開催！

児童虐待に関する相談件数は年々増加（平成23年59,862件）し、これに起因する施設利用児童が増加する養護施設においては、虐待を受けた児童への支援が大きな課題となっている。

沖縄県児童養護協議会（沖縄県社協）では、去る12月17日、虐待を受けた子どもへの支援のあり方を考える機会として、「気になる子どもへの支援を考える講演会」を開催した。講演会には児童養護施設、児童相談所、主任児童委員など240名余の児童福祉関係者が参加した。

講師には、福井大学子どもこのころの発達研究センター友田明美教授を招き、脳科学の観点から、虐待が子どもの脳に与える影響と支援のあり方について話された。

事例を交えた解説は分かりやすく、虐待による身体的な傷は完治しても、幼児

期や児童期など発達過程の段階で受けた心の傷は簡単にいやされることはなく、脳の一部に傷を与え、子どもの発達に影響を及ぼすことについて説明された。

それらの症状は、従来の「発達障害」の基準に類似した症状を呈する場合があると指摘。虐待が脳に与えた傷は大人になっても影を落とすこともあり、それら脳への影響や症状を理解した専門的な支援により回復が可能となることを説明し、社会的支援による早期介入が重要であると強調された。



虐待が脳に及ぼす影響について解説する友田教授

初歩からはじめる

「参加型」研修の場づくり

（介護支援専門員実務研修におけるファシリテーターの意義）

2月8日（金）から、新たに介護支援専門員の試験合格者を対象にした「介護支援専門員実務研修」が始まっている。受講生は277名。研修では講義やグループワークによる演習も取り入れながら、6日間・計44時間の研修を受講する。

実務研修の大きな特徴の一つに、グループワークに多くの時間をかけることが挙げられる。講義により講師から知識を聞くだけでなく、講師から学んだ点について、受講生が相互に議論や意見交換を行う「参加型」研修スタイルにより知識をさらに深めていく。

こうしたグループ演習においては、各グループに1名ずつ、グループ演習をサポートするファシリテーターが配置されている。その議論の際、受講生一人ひとりが研修の場で発言をし、自分の意見を述べる、そして意見を聴いてもら

えた」という実感を得るため、ファシリテーションスキルは必須となってくる。

去年の12月13日（木）介護支援専門員実務研修講師のための研修会「ファシリテーション基礎研修」を県内ではじめて開催した。各地から、実務研修を前に講師陣など47名が参加。宮道喜一氏（まちなか研究所わくわく事務局長）のファシリテーションのもと、実務研修の講師が、実際にファシリテーターとなって実習を行った。

参加者は、こうした模擬実習を通して、ファシリテーションスキルの基礎となる、①書く、②聴く、③話す、④待つ、の基本的なスキルを体感することで学びを深めた。

▼メモ

ファシリテーションとは？研修会や会議等において、参加者が発言しやすく、相互交流がしやすい状況をつくること。「ファシリテーター」は、そんな場をつくり研修会や会議等を進行する「人」のこと。

らではの発色で、確かなきゆう漆技術（※）を伴った完成度の高い作品」として、高く評価された。

受賞した津波さんは、沖縄は塗った漆が乾くのが他より早く、以前いた大阪では1日に1回しか塗れなかったが、沖縄では1日に3回塗る事ができ、また紫外線が強いことによって、朱色がより鮮やかに発色するなど、漆工芸に適しているという。

ご自身では「今回、受賞した作品は、『新しい琉球漆の材料を求めて』というメッセージも評価されたのではないか」と振り返る。

現在は「昨年度のかりゆし美術展での受賞を機にきゆう漆技術を若い世代へ伝承していく責任を感じています。」として、後輩たちへの指導に意欲を注ぐとともに、日展や日本伝統工芸展への出展を目指している。

※きゆう漆技術とは、漆塗を主とする漆芸技法で、素地の造形から下地の工程を経て上塗り・仕上げ工程に至る幅広い領域にわたり、漆芸の根幹をなす重要な技法。

地域福祉活動へ助成
H24年度助成事業の報告と
H26年度助成事業への申請

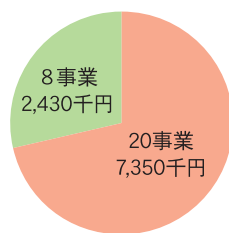
沖縄県社会福祉協議会では、沖縄県の地域福祉基金の果実を財源とした補助金による地域福祉基金助成事業と社会福祉振興基金の果実による社会福祉振興基金助成事業により、民間福祉団体やNPO等の財政基盤が脆弱な小規模団体に対して助成を行い、福祉活動の育成強化を図っています。

【平成24年度助成事業状況】

今年度、助成金を配分した事業は下記の助成事業状況及び助成先一覧表のとおり。平成26年度の事業に対する助成金の応募につきましては、左記のとおりです。

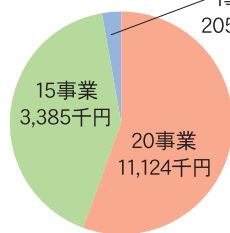
平成24年度地域福祉基金助成

施設整備事業 団体活動事業 研修事業



平成24年度社会福祉振興基金助成

施設整備事業 団体活動事業 研修事業



平成26年度助成事業

社会福祉法人・小規模団体等に対し、団体活動事業や研修事業等に助成を行います。民間福祉資金（本会・赤い羽根共同募金・中央競馬）要望調書の提出期間は、下記のとおりです。

提出期間

平成25年4月初旬から5月を予定。

※要望調書の様式は本ホームページに掲載予定です。

お問い合わせ

- いきいき長寿センター
TEL：887-1344
- 沖縄県共同募金会
TEL：882-4353

平成24年度 社会福祉振興基金助成先一覧

団体番号	実施団体名	事業名	助成額(千円)
1		第61回九州ろうあ者大会及び第40回全九州手話通訳者研修会	608
2		手話講習会担当講師養成講座	504
3	(社) 沖縄県聴覚障害者協会	平成24年度課題対策全国代表者会議派遣	0
4		平成24年度全国ろうあ者相談員研修会派遣	0
5		2012年度九州ブロック幹部研修会派遣	0
6	沖縄県肢体不自由児・父母の会連合会	第45回全国肢体不自由児・父母の会連合会全国(福島)大会	338
7		第28回九州ブロック肢体不自由児・父母の会連合会連絡協議会熊本大会	167
8	沖縄県身体障害者陸上競技協会	第24回全国車いす駅伝競走大会	400
9	沖縄ダルクリハビリテーションセンター	沖縄ダルクエイサー衣装、太鼓購入事業	204
10	沖縄県聴覚障害児を持つ親の会	『全国ろう学生集い』派遣事業	223
11		『秋季講演会』開催事業	177
12	(財) 沖縄県老人クラブ連合会	老人クラブ啓発事業	975
13		女性リーダー育成事業	741
14	沖縄県友声会	食道発声特別研修会開催事業	448
15	沖縄自閉症児者親の会	平成24年度会報発行事業	187
16		第40回九州視覚障害者サウンドテーパーフェスティバル大会派遣事業	339
17	(福) 沖縄県視覚障害者福祉協会	第66回九州盲人福祉大会(福岡市)派遣事業	197
18		沖縄県点字図書館整備事業	205
19	(福) 沖縄県身体障害者福祉協会	第6回九州身体障害者グラウンド・ゴルフ大会派遣事業	304
20	(福) 立命会	車輪整備事業	613
21	(社) 沖縄県介護福祉士会	介護福祉士会事務局内における機器整備事業(複合機)	50
22		沖縄県母子寡婦福祉大会	500
23	(社) 沖縄県母子寡婦福祉連合会	機関誌発行(県内母連だより)	234
24		第59回九州地区母子寡婦福祉研修大会派遣事業	116
25	しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄	シングルマザーの暮らしと子育てセミナー	159
26		全通研学校Ⅱ派遣(国内3ヶ所)	134
27	全国手話通訳問題研究会	全国手話通訳問題研究会集派遣(高知県)	152
28	沖縄県支部	全国手話通訳問題研究会九州ブロック研究会派遣(鹿児島県)	161
29		全国手話通訳問題研究会九州ブロック研究会派遣(愛知県)	93
30	全国心臓病の子どもを守る会沖縄県支部	心友会全国交流会派遣事業(関東)	174
31	(特) エイブルサポートつばさ	車両整備事業	1,448
32	(特) おきなわ自立支援センター	車両整備事業	1,503
33	(特) 自立生活センターイルカ	ピアカウンセリング集中講座	519
34	(特) ドリームサポートたんぽぽ	エアコン設置事業	477
35	(特) むりぶし	福祉車両整備事業	1,280
36	認知症介護を支えるかけはしの会	「かけはし」合体製作事業	84

平成24年度 地域福祉基金助成一覧

団体番号	実施団体名	事業名	助成額(千円)
1		29回耳の日記念大会開催事業	607
2	(社) 沖縄県聴覚障害者協会	第9回聴覚障害教育フォーラムin沖縄	350
3	(特) こども医療支援わらびの会	病院ボランティア事業	249
4	(特) チーム沖縄	介護従事者のスキルアップサポート試行事業	636
5	沖縄県共同作業所連絡会	平成24年度沖作連宿泊研修	392
6	沖縄県さわやか介護連絡会	ふれあい介護フォーラム事業	241
7	沖縄県肢体不自由児・父母の会連合会	療育キャンプ	569
8	沖縄県児童養護協議会	第25回沖縄県児童福祉施設等スポーツ大会	140
9	沖縄県車椅子陸上クラブタートルズ	第32回大分国際車椅子マラソン大会	447
10		『夏季親子宿泊研修会』開催事業	1,045
11	沖縄県聴覚障害児を持つ親の会	『全国親の会教育福祉研修会』派遣事業	135
12	沖縄県保育士会	保育講演会(第46回沖縄県保育士会研究大会)	351
13	(財) 沖縄県老人クラブ連合会	老人クラブ大会事業	560
14		芸能大会事業	238
15		情報提供事業	945
16	(福) 沖縄県視覚障害者福祉協会	第44回九州盲女性指導者研修大会(沖縄県)開催事業	228
17		パソコン等購入事業	237
18		視覚障害者用日常生活用具購入事業	156
19	(福) 沖縄県身体障害者福祉協会	人材育成研修会派遣事業	304
20	(福) とよみ福祉会	管理機購入事業	111
21	(社) 沖縄県里親会	本島地区、先島地区里親宿泊研修会及び里子交流会	529
22	(社) 沖縄県手をつなぐ育成会	第52回九州地区手をつなぐ育成会(鹿児島)大会参加者派遣事業	326
23		第61回全日本手をつなぐ育成会全国(高知)大会参加者派遣事業	192
24	心理リハビリテーション沖縄えいま会	心理リハビリテーション沖縄えいまキャンプ	300
25	全国手話通訳問題研究会沖縄支部	全国手話通訳問題研究会離島学習会(石垣市)	103
26	全国心臓病の子どもを守る会沖縄県支部	九州ブロック研修会(大分県)	94
27	(特) うていーらみや	わらべうたフェスタ 2012	176
28	ゆい作業所	ラベルプリンター及び感熱ラベル購入事業	119



沖縄県生命保険協会より 福祉巡回車とAEDが寄贈

平成24年12月11日、県総合福祉センターにて沖縄県生命保険協会による「福祉巡回車・福祉物品（AED）」の寄贈式が行われた。



今年、福祉巡回車の寄贈を受けたのは粟国村社協で、AEDは伊是名村社協へ贈られた。

沖縄県生命保険協会による福祉巡回車の寄贈は平成4年から今回で40台目、AEDは平成20年から今回で4台にのぼっている。

24時間TV福祉車両贈呈式

1月23日、「第35回24時間テレビ福祉車両贈呈式」



が行われ、「24時間テレビ」のチャリティ主催局を務める沖縄テレビ放送株式会社から、福祉車両1台と電動車いす3台が贈られた。

今回スロープ付自動車の寄贈を受けたのは、児童デイサービスや園外保育、移動支援等のサービスを行う石垣市社協。

また、電動車いすの寄贈を受けたのは県内で在宅生活を送っている3個人。

毎年行われる「24時間テレビチャリティ募金」では、県内を含め全国各地から寄せられた募金をもとに、今回を含め95台もの福祉車両が県内の福祉施設・団体等へ寄贈されている。

社協活動推進フォーラム 2012（平成24年度 市町村社協常務理事・ 事務局長会議）の開催

沖縄県社会福祉協議会では、去る1月28日（月）県総合福祉センターにおいて、社協活動推進フォーラム2012を開催し、約70名が参加した。

本フォーラムは、深刻化する社会的孤立や生活困窮等の現代的な課題に対して、地域福祉推進役である社協における今後の事業展開のあり方等について考えることを目的に開催した。



最初に、県社協・地域福祉部高良正樹部長より、「社協活動の今後の方向性」と題して基調報告がなされた。

次に、全国社会福祉協議会・地域福祉部佐甲学副部长より、「社協・生活支援活動強化方針が示すもの」をテーマに、国における生活困窮者対策の動向を踏まえ、当該方針内容の説明と今後の地域福祉推進における社協活動の方向性等について基調講演がなされた。

引き続き実践報告では、「社協の総合力を活かした生活支援活動の取り組み」と題して、かみざと社会福祉研究所神里博武主宰をコーディネーターに、三社協から発題があった。

まず、今帰仁村社協座間味美智枝事務局長から、社協らしい介護保険事業の展開に向け、ホームヘルパーがサービス提供時間以外に独居高齢者の見守り活動を行う仕組みづくりの構想が提案された。

次に、西原町社協澤岨吉照事務局長からは、問題提起・解決志向型の職員を育



成するための人材育成や職場環境の整備等、社協の総合力発揮に向けた事務局長の役割について報告があった。

また、八重瀬町社協石川健事務局長から、地区ワーカー配置による住民の生活ニーズ把握と課題解決の仕組みづくり等、総合相談からアウトリーチによる支援の流れの説明がなされた。

最後に全社協佐幸副部长から、各社協の実践報告に対するコメントや、今後社協が担うべき生活支援活動の展開方策等の助言がなされた。

第4回

沖縄ねんりんピック かりゆし美術展



オープニングテープカット

高齢者の芸術文化活動を通じた社会参加の促進を目的として、「第4回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展」が1月18日から27日まで沖縄県立博物館・美術館で開催された。

会場では、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門、昨年を上回る270点が展示された。

オープニング・表彰式

初日のオープニングセレモニーでは、沖縄県知事あいさつ（県福祉保健部部長の崎山八郎氏が代読）と最高齢出品者を含めたテープカットが行われた。表彰式では、昨年宮城県で開催した全国健康福祉祭美術展の厚生労働大臣賞の伝達表彰、沖縄県知事賞をはじめ金賞など表彰状が授与された。



表彰／県知事賞 金城睦雄氏（下段中央）

受賞作品

厳選な審査の結果、沖縄県知事賞に洋画の部門から金城睦雄氏（うるま市）の「廃屋のシーサー」が選ばれた。



沖縄県知事賞受賞作品／
廃屋のシーサー

ギャラリートーク

昨年から開催しているギャラリートークは、今年は全6部門にて開催され、審査員の解説に多くの方が耳を傾けた。また、作品出品者による作品制作の意図などの説明もあり、今後の作品づくりの参考にした。



ギャラリートーク（工芸）

【第4回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展受賞者名簿】

部門	賞	作品名	作者名	年齢	市町村
日本画	金賞	生命の尊厳	金城 清	71歳	浦添市
	銀賞	城址と桜	内原 節子	64歳	嘉手納町
	銅賞	壺屋の登り窯	星山 ミツ	75歳	那覇市
洋画	県知事賞	廃屋のシーサー	金城 睦雄	69歳	うるま市
	金賞	祖父	仲間 正雄	74歳	北中城村
	銀賞	休息	普天間 新	67歳	八重瀬町
		草原の風	知念 賢祐	68歳	大宜味村
		自然	藤川 久子	74歳	与那原町
	銅賞	水の饗宴	照屋 節子	61歳	うるま市
彫刻	銅賞	雨の松山	名嘉原盛吉	69歳	南城市
		透かし彫りレリーフ（ゴヤー）	池宮城米子	66歳	宜野座村

【出品者最高齢】

日本画	かりゆし賞	古梅	百名 恒子	93歳	浦添市
工芸		仏陀と竜神	松田 正精	88歳	那覇市

部門	賞	作品名	作者名	年齢	市町村
工芸	金賞	乾漆 葉盆（糸芭蕉）	大城 文子	76歳	名護市
	銀賞	さがりばな	平良 節子	74歳	八重瀬町
		燈籠 型獅子（門柱）用	大林 達雄	76歳	那覇市
書	銅賞	ベッドカバー	坂名城郁子	70歳	浦添市
		十六夜	上西 吉晴	63歳	那覇市
		トラヌージュ	嘉数笑津子	63歳	八重瀬町
写真	金賞	唐詩三首	西大 洋子	79歳	与那原町
	銀賞	牧水の歌	平良 民子	82歳	那覇市
		杜甫詩	宮城 孝子	77歳	北中城村
	銅賞	真草千字文	上原 次恵	66歳	那覇市
		李白詩	川上タケミ	60歳	北中城村
		李白の漢詩3首	田場 博	69歳	那覇市
写真	金賞	絆	兼島 正	76歳	那覇市
	銀賞	新旧混在	比嘉 功助	76歳	沖縄市
		自転車通学	染矢 尚武	67歳	北谷町
	銅賞	共白髪	南 研作	69歳	那覇市
		ぼくらの未来…!	松田 一良	70歳	宜野湾市
		夕日のシルエット	勝連 栄公	64歳	那覇市

こうち大会へ

今年度受賞した各部門上位2作品は、来年度高知県にて開催される第26回全国健康福祉祭こうち大会美術展へ沖縄県代表として出品する予定。

かりゆし長寿大学校 地域活動推進事業の報告

「アクティブシニアの活用を目指して」

いきいき長寿センターでは、「アクティブシニア（活動的な高齢者）」の養成を目的に「沖縄県かりゆし長寿大学」の運営を行っており、多数の地域活動の担い手を養成している。（同大学校の卒業生・24年度の在校生合計2671人）

また、卒業生・在校生について、大学卒業後の地域活動への参加促進につなげる機能の基盤整備を目的に「沖縄県かりゆし長寿大学地域活動推進事業」を23年度9月よりスタートさせ、主な取り組みとして以下を実施してきた。

- ①各種養成講座等の共同実施（那覇市福祉協力員養成講座・豊見城市ゲートキーパー養成研修等）
- ②市町村社協と卒業生の連携促進に向けて行われる「ボランティア・地域活動交流会」
- ③各市町村社協からの依頼

によるボランティアマッチング事業（「豊見城市ボランティアまつり運営ボランティア」・「ぎのわん車いす馬拉ソン運営ボランティア」等）

④地域活動促進のための情報誌「ボランティア・地域活動団体情報」アクティブシニアライフを有意義に過ごすために」の発刊

今回はこれらの中から、②地域活動交流会・③ボランティアマッチング事業「ぎのわん車いす馬拉ソン」の様子を紹介する。

☆地域活動交流会☆ 「豊見城市社協共催事業」

平成24年6月に豊見城市社会福祉協議会を会場に、シニア世代のボランティア・地域活動への更なる参加促進を図るとともに、ニュースポーツ体験を通して、卒業生の交流を行うこ

とを目的とする☆地域交流会☆が、かりゆし長寿大学校・豊見城市在住の卒業生を対象に開催され、16名が参加した。

当日参加者たちは、ボランティア登録についての説明を豊見城市社会福祉協議会の仲尾次りかさんから受け、ボランティア登録の重要性を再認識した会となった。また、ミニ囲碁ボール・ラゲッター・デイスゲッター・大型ジェンガ・スカットボールなどのニュースポーツを実際に体験しながら多くの卒業生と交流を深め、より地域と連携した情報交換の場ができたとの声も聞かれた。



ボランティア登録の説明を受ける参加者



ニュースポーツ(大型ジェンガ)に挑戦!!

☆ぎのわん車いす 馬拉ソン☆ 「ボランティアマッチング事業」

障がい者の社会参加とスポーツの振興を目的に「第24回ぎのわん車いす馬拉ソン」が、去る12月9日（日）に開催され、宜野湾市社協からの呼びかけにより、かりゆし長寿大学校からも13



会場の熱い熱気!!

名がボランティアとして参加した。

大会運営のボランティアに参加した崎山さんは、「会場の熱い熱気に感動した。ボランティア体験は初めてだったが、やりがいのあるものであった。また、機会があればぜひ参加したい!」と語った。



ゴール! お疲れ様でした☆



大学校生徒のボランティア部隊

2012年度
福祉の職場説明・面接会

県社協では平成24年12月11日（火）に沖縄県コンベンションセンター展示棟にて「福祉の職場説明・面接会」を開催した。

当日は事業所74ヶ所が参加、求職者443名（一般214名・学生229名）が訪れた。求職者はブースに足を運び各事業所の採用担当者や求人内容や施設の特徴など、積極的に話をする姿が見られた。各種相談コーナーでは、今回から履歴書の書き方や面接の仕方などが相談できる沖縄県キャリアセンターも加わり、求職者の相談に応じていた。



また、（株）プラスキャリアの那覇曉侍氏による「面接会の歩き方」と題して就職セミナーを開催した。去年よりも多くの求職者が受講し好評に終わった。

説明・面接会は毎年1回開催しているが、次年度は数回に分けて開催する予定。詳しい日時が決まり次第ホームページで告知する。

25年4月より

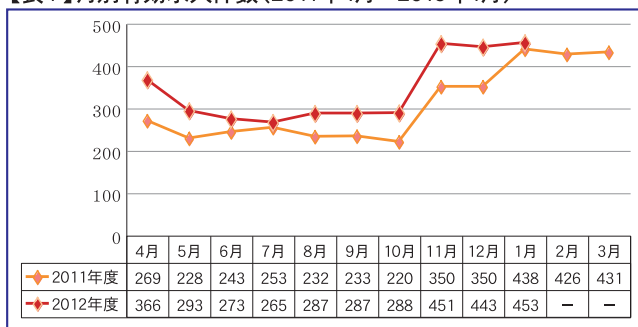
《メール配信サービス開始》
あなたの仕事探しを
お手伝いします!!

①「求職者マイページ」に登録すると、あなたの希望条件に合う求人票を毎日自動で検索。②検索結果は、マイページからチェックでき、新

沖縄県の福祉分野の求人動向は

わが国の人口は、2004年にピークを迎え、減少傾向に入っている。2055年には9000万人を割り込み、

【表1】月別有効求人件数(2011年4月～2013年1月)



2013年2月1日現在

高齢化率は現在の2倍（40・5%）、生産年齢人口（15～64歳）は現在の2分の1近く急激に減少してしまうと言われている中で、早急な福祉分野の人材確保が必要とされている。

近年の福祉分野の求人動向の現状として、求人数は年々増加しているが、生産年齢人口の減少に伴い求職者数は減少傾向にある。

沖縄県福祉人材研修センターの求人動向を月別（表1）で見ると、4月採用に向けての求人が多くなることから、11月から年度末にかけて求人件数が増加していくことが分かる。4月採用の対象となる新卒者や未経験者の雇用により、福祉人材の確保につながる。

職種別（表2）で見ると、圧倒的に介護職の求人が多く、保育士、相談・支援・指導員、看護職、ヘルパーと続く。特に介護職と保育士の人材不足が深刻となっている。

【表2】求人数(2012年4月～2013年1月)

No.	職種	正職員	常勤	非常勤	合計
1	介護職	460	1,923	544	2,927
2	保育士	50	1,819	242	2,111
3	相談・支援・指導員	141	498	269	908
4	看護職	470	255	100	825
5	ホームヘルパー	21	16	419	456
6	その他	9	98	64	171
7	サービス提供責任者等	94	38	12	144
8	介護支援専門員	86	55	0	141
9	調理員	0	55	66	121
10	事務職	12	38	24	74
11	セラピスト	8	22	6	36
合 計		1,351	4,817	1,746	7,914

2013年2月1日現在

また、雇用形態別に見ると、常勤が最も多く、次に非常勤、正職員と続く。常勤の求人が多いが正職員を希望する求職者との間にミスマッチが多く見られる。正職員については求人数が少ないものの、その人の適性や能力を考慮した上で、常勤や非常勤の職員を正職員として中途登用する場合が多い。求人側と求職者側のミスマッチをいかになくすかが今後の課題である。

沖縄県福祉人材研修センター
098-882-5703
(平日・9時～17時)

福利厚生サービスが大幅に拡大!

ソウェルクラブおきなわ

福利厚生センターでは、従来の福利厚生サービスに加え、昨年10月から「クラブオフ」(スタンダード会員、VIP会員)の登録制度を導入しました。

利用できる全国の対象施設は75000ヶ所以上で、宿泊施設やショッピング、子育て・介護などの福利厚生サービスを大幅に拡大し

ています。

例えば、ホテル日航グラインドキャッスルを大人2名で利用する際の通常料金は1人当たり9600円ですが、スタンダード会員であれば6300円、VIP会員であれば5300円で利用でき、最大4300円のお得となります。

ソウェルクラブ会員は、

個人単位でホームページから簡単に登録でき、無料のスタンダード会員と、よりクラブオフを活用できる有料(月額525円)のVIP会員の2種類から選べます。

沖縄で利用できるクラブオフサービスを一部紹介します。(別表の通り)

「クラブオフ」、または「ソウェルクラブへの加入」の詳細については、お気軽に福利厚生センターまたはソウェルクラブおきなわ事務局までお問い合わせください。

沖縄県で利用できるサービス 別表

「クラブオフ」のサービス一例

ラグナガーデンホテル

※大人2名で利用した場合の1人当たりの料金です。

通常料金・・・10,500円

※2月の料金表を参照

VIP会員料金・・・5,500円

スタンダード会員料金・・・6,500円

最大5,000円もお得!



BIG ECHO

カラオケ室料30%off

※金土祝前日は20%off

フリータイム5%off

宴会コース5%off

Healing Hands Supliss

全マッサージメニュー20%off

てもみんグループ チケット

通常料金・・・1,050円

VIP会員料金・・・850円

スタンダード会員料金・・・950円

お問い合わせ

社会福祉法人

福利厚生センター

TEL:0120-292-711

FAX:0120-292-722

HP:<http://www.sowel.or.jp/>

沖縄県社会福祉協議会

(ソウェルクラブ沖縄県事務局)

TEL:098-882-5703

FAX:098-886-8474



※ソウェルクラブは福祉の職場で働く人の福利厚生を支援しています。

学費も生活費もサポート!

介護福祉士等修学資金貸付のお知らせ

県社協では福祉・介護の現場で活躍したい学生を支援するため、修学資金の貸付を行っています。対象は県内の

介護福祉士又は社会福祉士の養成校へ通う学生です。養成校を卒業後、指定の社会福

【指定の養成校】

沖縄福祉保育専門学校

☎098(868)5796

ソーシャルワーク専門学校

☎098(933)8788

沖縄アカデミー専門学校

☎098(850)0101

沖縄リハビリテーション福祉学院

☎098(946)1000

琉球リハビリテーション学院

☎098(983)2130

祉施設で5年間働くと返済が免除となります。詳細は、各指定養成校へお問い合わせください。

また、同貸付制度が新年度から拡充され、家庭の経済状況等により進学に悩む生徒に対して学費面だけでなく生活費も支援できるようになりました。さらに、このような生徒は入学前の貸付申請が可能となりました。こちらについては、福祉人材研修センターまで問い合わせください。

【連絡先】

沖縄県福祉人材研修センター
☎098(882)5703

～ライブラリーより本の紹介～

『おおきな木』

いつでもそこにある木。成長し、変わっていく少年。それでも木は、少年に惜しめない愛を与え続けた…。何度でも読み返したい、シルヴァスタインのロングセラー絵本。

1976年に本田錦一郎氏の翻訳で発売し、2010年には村上春樹氏の翻訳で再登場。

※社会福祉ライブラリーでは2010年発行の「大きな木」を取り扱っています。

【著 者】

シェル・シルヴァスタイン/

村上春樹 訳

【発 行】

あすなろ書房

【出版年月】

2010年9月

【定 価】

1,260円

(本体1,200円+税)



県民の福祉活動を促進する拠点として早10年
これからも利用しやすいセンターとして

平成15年2月より県総合福祉センター（以下、「センター」という。）が供用開始され、今年で10年目を迎えました。

修室や会議室があります。最大240台収容の無料駐車場も備え、低額で充実した設備が利用できることから、各福祉施設・団体の会議や研修はもちろん、企業内研修や面接会等にもご活用いただけます。より多くの皆様のご利用をお待ちしています。

センターの申請書や利用料金一覧、施設の空状況については、センターホームページよりご覧いただけます。

<http://www.okishakyo.or.jp/center/>



ライスセンターラック様
大田直也様
N T T西日本沖縄支店様



ご寄付いただき、誠にありがとうございます。本会への寄付については、税制上の優遇措置が受けられます。

- 非営利ボランティア団体 琉球の風様
- (社) 沖縄県宅地建物等取引業協会様
- 日本生命保険相互会社労働組合那覇支部様

寄付・寄贈者芳名
平成24年12月28日
平成25年2月19日

編集後記

今回、絵画を提供してくれた高良さんの取材で、沖縄のおばあさんの強さを目の当たりにしました。が、先日発表された都道府県別の平均寿命で統計以来、ずっと1位だった沖縄の女性が3位に転落したとの報道に、おばあさんの危機を感じます。

平成23年度のかりゆし美術展でかりゆし賞を受賞した高良さんは現在93歳で、最高齢の出展者でした。約8年前から宜野湾市老人福祉センターの絵画サークルに通い、ご自身のペーシングで絵筆を動かして作品を仕上げます。近隣市町村に住む子ども達の支援を受けながらも、自宅でお一人、元気に生活している高良さんは、とても活発で器用な方です。



作成者 高良幸子 さん

表紙の絵
作品名
「灯台のある風景」